

〔長久手町業務評価票：平成19年度業務〕

課係NO・業務NO	□□□□-□□・2	総合計画	主要プロジェクト(1)長久手田園バレー構想
担当課・係名	田園バレー事業課 事業係【問合せ・質問等の先（内線番号）292番】		

業務の名称	平成こども塾事業																																														
(1)根拠法令・条例	長久手町平成こども塾条例（平成18年3月29日条例第17号）																																														
(2)当該業務量 (延人員規模含む)	総業務量の 42.5%（係の総業務量を100%とする） 職員延人数：625人・日（臨時雇用者延人数：245人・日）																																														
(3)事業費 (人件費分を除く)	59,394千円（平成19年度決算（細目・細々目の実績から抽出・算定する）																																														
(4)補助率（補助金がある場合のみ記載）	0%（平成18年度実績）																																														
(5)業務期間	開始した年度	14年度	終了（予定）年度																																												
(6)業務の概要（簡潔に箇条書きで記載）																																															
①業務目的（達成目標）	自然とのふれあいやもの作り体験、伝統文化体験や農業体験を通じて、自然と人間のかかわり方を学び、子どもの感性や、生きる力、心を豊かに育むことを目的に様々な体験プログラムを実施する。																																														
②業務が対象とする住民（地域、層）	町内の小中学生とその保護者																																														
③業務の具体的な実施内容・方法 (平成19年度実績)	<p>(1) 町内小学校の授業の一環として小学生に自然体験活動等を実施した。</p> <p>(2) 専門の講師により創作を通じて自然に接するプログラムを実施した。</p> <p>(3) 町内ボランティア（サポート隊）により「食と農」、「自然観察・体験」、「創作」、「文化・交流」のプログラムを実施した。</p> <p>(4) 長野県南木曾町での自然体験プログラム、近隣大学と連携したプログラムを実施した。</p> <p>(5) 平成こども塾事業において、体験活動の場として使用する畑の整備と来場者の駐車場の用地の一部を取得した。</p>																																														
④業務の実施結果 (平成19年度実績)	<p>施設の開館が2年目となる19年度は、体験プログラムの内容やプログラム数を充実させ、215プログラムを用意した結果、5,374名の参加が得られた。（総来場者数 約8,500名）また、今後の事業活動を充実させるために必要な畑や駐車場の用地の一部を確保した。</p> <p>【業務結果の説明指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">結果の説明指標</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>19年度実績</th> <th>20年度目標</th> <th>将来目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学校連携プログラムの開催</td> <td></td> <td>30回</td> <td>54回</td> <td>57回</td> <td>60回</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>専門プログラムの開催</td> <td></td> <td>11回</td> <td>21回</td> <td>21回</td> <td>32回</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>サポータープログラムの開催</td> <td></td> <td>118回</td> <td>122回</td> <td>119回</td> <td>120回</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>こども塾自主プログラムの開催</td> <td></td> <td>2回</td> <td>18回</td> <td>9回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動用地の取得</td> <td></td> <td></td> <td>1,008㎡</td> <td>1,012㎡</td> <td>2,020㎡</td> </tr> </tbody> </table>					結果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標	1	学校連携プログラムの開催		30回	54回	57回	60回	2	専門プログラムの開催		11回	21回	21回	32回	3	サポータープログラムの開催		118回	122回	119回	120回	4	こども塾自主プログラムの開催		2回	18回	9回	10回	5	活動用地の取得			1,008㎡	1,012㎡	2,020㎡
結果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標																																									
1	学校連携プログラムの開催		30回	54回	57回	60回																																									
2	専門プログラムの開催		11回	21回	21回	32回																																									
3	サポータープログラムの開催		118回	122回	119回	120回																																									
4	こども塾自主プログラムの開催		2回	18回	9回	10回																																									
5	活動用地の取得			1,008㎡	1,012㎡	2,020㎡																																									
⑤業務の成果（業務目的の達成状況） (平成19年度実績)	<p>田園バレー事業のこども版として、農村における川や水田等の自然環境、農家や農村等の集落環境に触れる機会をこども達に提供することで、多様な自然環境とふれあい、農業や環境への関心を持たせ精神的な豊かさを分かち合えることができた。</p> <p>【業務成果の説明指標：基本計画準拠】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果の説明指標</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>19年度実績</th> <th>20年度目標</th> <th>将来目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="5">こども達の感性や心、生きる力を育む</td> <td>(学校P)</td> <td>705名</td> <td>2,121名</td> <td>1,940名</td> <td>1,800名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(専門P)</td> <td>261名</td> <td>672名</td> <td>760名</td> <td>400名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(サポP)</td> <td>1,298名</td> <td>1,580名</td> <td>1,940名</td> <td>1,600名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(自主P)</td> <td>300名</td> <td>1,001名</td> <td>130名</td> <td>200名</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					成果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標	1	こども達の感性や心、生きる力を育む	(学校P)	705名	2,121名	1,940名	1,800名	2	(専門P)	261名	672名	760名	400名	3	(サポP)	1,298名	1,580名	1,940名	1,600名	4	(自主P)	300名	1,001名	130名	200名	5									
成果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標																																									
1	こども達の感性や心、生きる力を育む	(学校P)	705名	2,121名	1,940名	1,800名																																									
2		(専門P)	261名	672名	760名	400名																																									
3		(サポP)	1,298名	1,580名	1,940名	1,600名																																									
4		(自主P)	300名	1,001名	130名	200名																																									
5																																															

(7) 遂行上の問題点、取組課題（箇条書きで簡潔に記載）

担当職員、サポート隊のプログラム企画立案、運営等に対するスキルアップを図る機会が少ない。

(8) 改善実績（過去3年間の実績）

多様な体験プログラムを提供し、できるだけ多くの子ども達が参加できるよう改善した。

(9) 業務の評価（自己診断）

評価基準	評価の視点	五段階評価 (5～1点)
①目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	3 点
②コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	3 点
③業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	3 点
④住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	3 点
⑤総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	3 点
⑥他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	4 点
		平均 3.2 点

(10) 総合評価（課の見解）

①今後の方向 (該当番号に○印)	<ol style="list-style-type: none">1. 前年度と同じく、そのまま継続する。2. 見直して継続（業務の拡大）3. 見直して継続（業務の縮小）④ 見直して継続（方法の改善）5. 見直して継続（他業務と統合）6. 廃止する。7. 休止する。
②評価理由	多様な自然環境学習プログラムを充実させていくため。

(11) 今後の目標・改善方針（具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること）

- ・多くの小中学生に参加してもらえるようにプログラムを充実させ、幅広く自然環境学習を実践する。
- ・担当職員、サポート隊のスキルアップを図る。